

## 第3回 小浜市水道料金等制度審議会 会議録

日時 令和3年9月27日(月)  
19:00~20:45  
場所 市庁舎4階 大会議室

### 1. 開会

委員15名中 出席13名 欠席2名により、会議成立

### 2. 会長あいさつ

### 3. 確認事項

#### (1) 第2回会議録の確認

会議録の内容の確認 → 意見なし

→ 個人名なしで市の公式ホームページに掲載

### 4. 議事

#### (1) 小浜市水道事業会計の経営状況について

事務局より、水道事業の業務内容、経営状況、第2回審議会の質問などに関する説明。

#### 【質疑応答】

委員：有収率の向上と書いてあるが、小浜市は何パーセントか。

また、全国平均はどのくらいか。

事務局：直近の数年間は90%を超えている。

全国と同規模レベルの自治体の平均は84.5%となっているため、全国平均より上回っている。

委員：なるべく90%以上を維持していただきたい。

委員：企業債残高が令和6年度から7年度にかけて増加する要因はなにか。

また、企業債利息の支払額が少なくなると説明があったが、今の低い金利の状態で計算しているのか。

事務局：令和 6 年度から 7 年度にかけて企業債残高が増加する要因は、この時期に簡易水道の統合や西津橋・大手橋の架け替えに伴う整備を見込んでいるためである。金利に関しては、今と同じ考えで計算している。

委員：一般的な企業では、歳入が減っていくと見込み、現金を残したまま借金をしないのではないかと。残っている現金がどれだけの益を生むのか分からないが、少しでも債務を減らしながら必要なときに借りるのが一般的な手法では。

事務局：現金をどれだけ持っていれば良いのかを考えているところであり、次回の懸案事項の中で説明させていただこうと思う。

委員：水道事業の業務内容について、この中で委託している業務項目はどれか。

事務局：水質検査、施設関係、メーター交換を委託している。

委員：業務項目の中に上下水道料金の徴収業務はないのか。

事務局：主な業務のみを記載させていただいている。

委員：水道事業の業務のうち、民間委託が何パーセントくらい占めているのか知りたかった。記載されていない業務項目は他に何があるのか。また、水道料金の徴収の業務は主な業務には入らないのか。

事務局：給水原価を説明するために、水を作る業務をメインに主な業務を記載させていただいた。

委員：民間委託をして上下水道料金の徴収率が上がったと質問の回答にあった。お金に関することなので、主な業務項目に入れたい方がいいのでは。

事務局：5 ページの委託料の数字の中には入れていたが、業務内容のところには記載していなかった。主な業務内容にさせていただく。

委員：どちらかのみに記載するのではなく、言葉で示すものと数字で示すものの両方記載いただくと理解しやすい。

会長：確認になるが、業務内容の施設区分のうち、委託しているのは施設維持管理だ

けなのか、それとも施設区分の全部なのか。

24 時間監視などは業者に委託しているのではないのか。

事務局：委託している部分は、業務項目の水質管理、施設維持管理、施設警備、メーター交換である。

会長：次回の協議で市の方針を示すと説明があったが、今回の資料を基にするのか。今回の資料は施設更新費などが入っていないのではないのか。

事務局：今回の資料は令和 3 年 3 月に策定した経営戦略を基に作成しているため、施設更新費の一部が入っていない。

次回の資料には、令和 2 年度の決算値を反映させ、今年度に策定予定の施設の更新計画に基づいた試算できる範囲の数値を併せて反映し提示させていただこうと考えている。

そのため、今回の資料と数値が変わってくる。

会長：今回の資料では令和 2 年度の決算値は反映しておらず、令和 2 年度までの結果を基に予測して作成したもので、次回の資料で令和 2 年度の決算値と更新計画に基づいた試算がでてくることでいいのか。

事務局：そのとおりである。

更新の金額とそれに基づいた試算をご提案したいと考えている。

委員：今回の資料に令和元年度の給水原価の内訳があるが、第 2 回資料の令和 3 年度の給水原価と同じとなっているがなぜか。

事務局：第 2 回資料の令和 3 年度は誤りで、令和元年度が正しい。令和元年度実績の給水原価を記載していたため訂正をお願いしたい。

委員：先ほどの質問とまったく同じで、第 2 回資料の令和 3 年度の給水原価および供給単価でなく、令和元年度の給水原価および供給単価でいいのか。

事務局：そのとおりである。第 2 回資料の表に記載してある給水原価および供給単価を四捨五入した数値を今回の資料に記載させていただいた。

(2) 小浜市下水道事業会計の経営状況について

事務局より、下水道事業の経営状況、使用料などに関する説明。

【質疑応答】

委員：第 2 回目の資料の H23 年度～R1 年度歳入歳出科目別のグラフが今回の資料には見当たらないが、今回の資料には記載していないのか。

事務局：前回の資料では、平成 23 年度から令和元年度の特別会計で運営していたときの実績を記載させていただいていた。今回、同様のグラフで令和 2 年度以降の企業会計で運営した場合の予測値を提示したかったが、グラフに表すと複雑となることから、使用料や維持管理費など主要な収入や支出を抽出したものおよび資金残高の予測値として令和 2 年度から令和 8 年度までの分を記載させていただいた。そのため、前回の資料のグラフは割愛させていただいた。

委員：先ほどの質問で言いたかったのは、令和 8 年度に資金がマイナス 1 億 3 百万円になる根拠を知りたかったからである。第 2 回資料の歳入歳出科目別のようなグラフがあれば分かるかと思った。下水道では予測値を提示できないと言っていたが、水道の資料には令和 2 年度から令和 7 年度まで細かい数値を提示している。なぜ下水道ではできないのか。  
資金がマイナスになる理由として、どの数字を足したり引いたりするのが分かれば理解できると思うが、今の資料では見方が分からない。

事務局：水道の資料では、経営戦略の数値を使い、令和 2 年度から令和 7 年度まで千円単位で計算して記載している。その表で令和 7 年度の資金残高が 1,299,393 千円と示してある。

下水道は、この資金残高を計算するために、収入分や支出分の項目が約 4 倍必要となってくる。人件費や維持管理費などは水道と変わらないが、これ以外に起債の償還や平準化債、一般会計繰入金の計算式などがあり、その数値を記載すると、資料と見にくくなると判断し、結果としての資金残高のグラフのみを提示させていただいた。

また、数値的には 100 万円単位で記載しているが、これは分かりやすくするためであり、資金残高などの計算上は千円単位で計算している。

委員：今の説明では、多くの数値が必要と言われていたが、今回の資料に記載されているグラフが主な歳入や歳出になるのか。それならば、記載してあるものだけでもいいので、数字をどのように加減すればいいのか教えてほしい。その他細かい項目もあると思うが、下水道使用料や一般会計繰入金、維持管理費、起債

償還額などをどのように加減すると令和 8 年度の資金残高のマイナス 1 億 300 万円になるのかを知りたい。記載してある歳入、歳出のほかに細かい項目もあると思うが、それらをまとめたグラフや表を提示してほしい。

事務局：記載している収入と支出以外にも細かい項目があるが、それらを計算した結果が資金残高となる。今回は資金残高の結果のみを記載しているが、次回、もう少し精度の良い数値も提示できると思うので、併せて資金残高の計算過程が分かりやすいグラフや表を提示させていただく。

会長：委員の方からすると細かい数字とかではなく、項目ごとにそれらを加減することで資金残高がマイナスになることを示してもらいたいのではないかと思う。複雑な計算をしているんだろうが、その部分分からないと理解しにくいし、水道の資料で記載されているのに下水の資料で記載がないのも不思議である。

会長：水道と下水道で別の方が資料を作成しているため、まとめ方が違うのはしょうがないと思う。しかし、審議会では水道料金と下水道料金の 2 つの事項を短時間で審議をするため、資料の作り方が別々であると理解するのに時間がかかる。今までは事業の説明などの話しであったが、今回は重要な議論になってくると思う。そのときには、できるだけ同じような資料や根拠で提示いただきたい。

事務局：今までの資料と内容は変えることなく、下水道の資料を水道の資料の記載方法などに合わせて作成し、提示させていただく。

委員：収納率のグラフについて、今回と前回の資料を比べると実績も予測も数字が少しずつ違う。令和 3 年度から令和 8 年度の収入予測額について、前回の資料では、人口減少と普及率の上昇で収入額が±0 の見込みで一定となっていたのに対し、今回の資料は収入額が少しずつ上昇している。その考え方の違いはあるのか。

また、平成 23 年度から令和 2 年度の実績値が前回資料と違うのはなぜか。

事務局：前回の資料では、人口は減少するものの接続人口はほぼ横ばいと予測したことから、令和 3 年度から令和 8 年度まで収入額を一律とした。しかし、前回の会議の中のご指摘から、接続人口の予測値を再度算出し、それに基づいた使用料収入を計算した結果、収入額が上昇に転じた。

また、実績値が違う理由として、前回の資料では過年度分の使用料に対する収

入を収入額に上乗せしていたが、今回の資料では収入額に上乗せせずに現年度分の使用料に対する収入額のみとしたためである。なお、予測値についても同様とさせていただいた。

委員：今回と資料の赤色棒グラフの判例が現年調定額になっており、前回資料と違う。

事務局：今回の資料では、赤色棒グラフは現年調定額にさせていただいている。青色棒グラフに現年収入額にし、収入額を調定額で割ることで収納率を算出できるようにしてある。予測値についても同様とさせていただいている。

事務局：今のグラフには、調定額と収入額の両方を記載している。しかし、水道資料には収入額しか記載していない。今後審議会で検討していくのに両方必要なのか考え方を統一するとともに、資料としても統一していく。

委員：将来の収納率の数字について、98.3%と一定で推移すると予測しているが、過去には98.9%となったときもある。このときは経営努力か何か目標を立てたのか。

事務局：収納率の実績としては、平成27年度まで97%台で推移し、平成28年度からは98%台に上昇した。この時期から徴収事務の外部委託を開始し、専門的に料金の徴収をお願いしたからである。そのため、一時期は収納率が98.9%になったものの、予測値としては全体の実績収納率の平均値を採用し、98.3%とさせていただいた。

委員：維持管理費のうち、人件費が令和2年度と令和元年度が大きく違うのはなぜか。

事務局：人件費を維持管理に係るものと建設に係るものに分けており、今回の資料では維持管理費に係る人件費のみを記載している。主な事業を建設から維持管理にシフトしてきたことから、人件費についても同様に令和2年度から維持管理費のほうに割り振りを変更した。

委員：資金残高が最初は2000万円の減から加速度的に減っていくことがショックである。資金残高がこれだけ急激に減少していくものなのか。資料を見ても読み取れないので、そこが分かるように説明してほしい。

また、令和2年度の会計方式の変更から経営の問題点を抽出するとあるが、単年度でわかるものなのか。単年度だけで問題点の抽出は非常に難しいのでは。特別会計の決算を会計方式の変更後に読み替えることは不可能なのか。

事務局：令和 2 年度 1 年間の決算をもって経営状況を把握するものではない。特別会計の決算値を企業会計に読み替えるようなことを含めて検証していく。

資金残高が加速度的に減っていくのは、令和 2 年度決算および繰出しのルールなどの単純計算の結果である。資金の減少していく根本的な原因を洗い出し、どう解消するか、次回ご提案していきたい。市の方針として財政部局との絡みもあり、料金のことだけでなくシステム的な考え方も検討中である。来月半ばには方向性を決定できると思う。

会長：次回以降の審議会では、答申に必要な内容の検討になってくると思うので、次回の審議会前は早めに資料を見せていただきたい。決算の数値なども出てくるとのことで、その際の資料については、素人目からでも分かりやすいように水道と下水道の資料の統一も含め作成をお願いしたい。

下水道のほうは、資金残高が加速度的に減っていくことが読み取れなかったのもそこを示してほしい。

#### 5. 次回の開催日程について

通常であれば月の下旬に開催しているが、下水道の方針の決定や資料の作成などを考慮して再度日程調整を行う。

#### 6. その他（特記事項なし）

#### 7. 閉会